

沖縄県眼科医会

沖縄県眼科医会 会長 中山 貞之



沖縄県眼科医会 会員数123名、会長以下理事13名

毎月第4水曜日 19:30より県医師会館第3会議室で理事会を行っております。

理事会は報告事項、協議事項からなり、日本眼科医会、県医師会より会員への依頼文書、アンケート、調査定点など報告事項、協議事項を含む会員への眼科医会理事会報告、日本眼科医会より連絡文書、配布表、などありとあらゆることを行っております。日本眼科医会よりの問い合わせ、事務連絡が多く、眼科医会会務全般に精通していることが必要です。

県医師会に眼科医会事務所の設置も検討いただきましたが、事務所を設置しても、問い合わせ、事務内容の確認に時間を費やし、会務全般に精通した会長本人が事務処理を行った方がよいとの結論になりました。

沖縄県眼科医会報告を年2回発行し、表紙写真、巻頭言、学術報告、新聞投稿など、会員の先生方をお願いして掲載しています。

10月10日「目の愛護デー」には沖縄タイムス、琉球新報の地元2紙に広告を掲載し、目の検診、啓蒙活動を行っています。「忘れてはいませんか？目の検診、年に一度は眼科専門医へ」

沖縄アイバンク協会と協力して資金造成のための募金箱設置とポスターの配布を行っております。

日本の眼科82:5号(2011)に、「眼科を選ばなかった理由、それにも勝る眼科の魅力アピールを」と題して、中国四国ブロック勤務医委員、愛媛県立中央病院松田久美子先生が述べています。以下、引用(抜粋)してご紹介します。

眼科志望者は2004年の新臨床研修制度以降、著しく減少しており、厚労省の資料では以前の水準に比べ約30%減少しているとされて

います。

選ばれなかった理由1: 全身を診たい

共通する第一の理由は「眼科は全身管理をすることが少ない。皮膚科、泌尿器科など他のマイナー科に比べ顕著に少ない」

選ばれなかった理由2: 眼科医の全科当直勤務は大変

後期研修は研修指定病院で受けることになり、全ての研修指定病院では全科当直がある。全身管理から距離のある眼科専攻医として、全科当直のある病院でやっていくのは非常に大変である。

選ばれなかった理由3: 眼科は特殊性が強く、とっつきにくい

眼科は特殊性が強く、とっつきにくいという、外科内科などで学んだ医師としての基本診療能力を生かすことが難しく、失われていくようで焦りを感じる。検査の機械や専門用語、カルテの記述、診察方法も他科とは一線を画していて、自分で所見を取れるようになるのも時間がかかる。

選ばれなかった理由4: 眼科開業医は飽和状態

選んだ理由:眼科領域に魅せられた眼科専攻医は「学生や初期研修医時代に初めてみた眼科手術に特に感動を覚えた。眼という一見小さな臓器の中で行わる多種多様な手術は、他科の外科手術とは一味違い、どれも細やかで巧みであり、本当に心を奪われた。」

専攻医にとって、このような手技を一つずつ習得していくことは自分の目で直接病気を診ることが出来る、そして自分の手で治療を行っていく、眼科ならではの醍醐味を少しでも知って貰えれば、将来眼科を志望する若手医師も増えていくのではないかと思うと述べています。

泌尿器科医会よりご挨拶



沖縄県医師会医学会泌尿器科医会 会長 中山 朝行

盛夏の頃、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。今年はひょっとしたら台風の当たり年かもと危惧の念を抱きながら、ご挨拶申し上げます。またこのたびは泌尿器科医会紹介の紙面を頂き、まことにありがとうございます。早速ですがまず泌尿器科医会の生い立ちから述べさせていただきます。

発足は昭和40～43年ごろ、当時は全国の大学医学部において皮膚泌尿器科学教室から泌尿器科学教室への分離がほぼ完了した頃ですが、復帰前の沖縄では沖縄皮膚泌尿器科会として12,3名の先生方を会員として発足いたしました。

それから10年ほどは月1回の情報交換を兼ねた夕食会という形で定例会が開催されておりました。その間に琉球大学に保健学部が発足し、泌尿器科学教室、皮膚科学教室が開設され、それに伴って日本泌尿器科学会、日本皮膚科学会の沖縄地方会が設立されました。

そのような状況のなかで皮膚泌尿器科医会の会員が増加してきたこともあり、昭和59年、県医師会の了解の下に沖縄皮膚泌尿器科医会は発展的に解消して沖縄県医師会泌尿器科医会と沖縄県医師会皮膚科医会に分離独立いたしました。泌尿器科医会の初代会長は宮里尚義先生です。

当初の活動は、当時那覇市与儀にありました保健学部附属病院での泌尿器科月例レントゲンカンファレンスでした。私も参加しておりましたが、メンバーがまだまだ少ないこともあり、出席者が皆知り合いの仲で、遠慮なく意見を言い合うアットホームな雰囲気でした。日本泌尿

器科学会の第1回沖縄地方会は昭和50年に開催されましたが、泌尿器科医会員だけでなく、皮膚科医会の先生方にも応援をいただいて無事開催にこぎつけたようです。沖縄地方会には今でもそうですが、結構全国から応募があります。以後も地方会との連携の下に、医会としては、学術講演会の開催、協賛、市民講座の開催などを行ってきました。

また年1回は懇親会をかねて総会を開催しております。現在医会事務として案内を送付する会員の先生方は60名ほどおりますが、実際に活動へ協力いただける会員の先生方は30名ほどです。若い先生方の参加を増やすのが課題です。

学術的な面での活動は地方会との重複（ほとんどの会員の先生方は地方会の会員でもある）もあり、難しい面がありますが、日常保険診療などの問題は勤務医や開業医の先生方どちらにとっても重要な問題であり、今後医会としても取り組んでいくべきと考えております。

そのような経緯より、今年6月の医会総会では日本臨床泌尿器科医会の会長および理事の先生方にご参加いただき、診療報酬、保険診療の様々な面からの講演いただきました。そしてその後の懇親会も大変盛会でした。私などは若い頃多くの先輩方から貴重な臨床経験を雑談の中で教えていただいたものですが、今の若い先生方にもネット検索で情報を得るだけでなく、生きた会話の中から学び取ることを経験してもらいたいと考えます。ぜひ多くの若い先生方に泌尿器科医会への参加を呼びかけたいと思います。